

1. 職名・氏名 准教授・國崎大恩

2. 学位 学位 修士（人間科学）、専門分野 教育学、授与機関 大阪大学、授与年月 2006年3月

3. 教育活動

(1)講義・演習・実験・実習	
①担当科目名（単位数）	主たる配当年次等
	<ul style="list-style-type: none"> ・教育原理（2単位）1年次 ・教師論（2単位）1年次 ・教育社会学（2単位）1年次 ・教育史（2単位）1年次 ・導入ゼミ（2単位）1年次 ・教育実習（3単位）3～4年次 ・教職実践演習（2単位）1年次 ・教養特講Ⅰ（オムニバス）（2単位）1～3年次
②内容・ねらい（自由記述）	<p>教職課程の科目においては、文部科学省より指定されているコアカリキュラムをふまえた授業内容とし、学校教員として最低限必要となる知識・技能の習得をねらいとして授業を実施した。</p> <p>導入ゼミについては、データの批判的解釈を主な授業内容とし、ディスカッションやレポート作成等の大学生活にとって必要となる知識・技能の習得をねらいとして授業を実施した。</p> <p>教養特講Ⅰについては、成長間の変遷を主な授業内容とし、教育学の専門的な内容に簡単に触れられることをねらいとしてオムニバス授業の1コマで授業を実施した。</p>
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述）	<p>学校教員としての勤務経験を活かして授業内容をできるだけ具体的に話すことやフィールドワークを取り入れること、LMSを利用した毎回の授業内容のまとめレポート提出等、専門的な授業内容を学生が理解しやすくなるよう工夫をした。</p> <p>また、ディスカッションや発表を適宜取り入れ、知識を身につけるだけでなく、身につけた知識を活用できる場を設定することで授業内容の理解を促す工夫をした。</p>
(2)非常勤講師担当科目	
①担当科目名（単位数）	開講学校名
	<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育の思想史（2単位）兵庫教育大学
②内容・ねらい（自由記述）	<p>学校教育の成立と展開を教育思想史の観点から概説し、教育思想史の専門的知識を教授することをねらいに授業を実施した。</p>
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述）	<p>臨床的なテーマ設定の下でディスカッションを実施する等、専門的知識と学校の臨床場面との結びつきが学生にとって明確となるよう工夫をした。</p>
④本学における業務との関連性（自由記述）	<p>本学における教職課程の運営と十分な関連があり、教育大学とのつながりは教職課程認定においてとりわけ重要さを増す。</p>
(3)その他の教育活動	
内容	
<ul style="list-style-type: none"> ・教員採用試験の受験希望者に対する筆記試験・面接試験の対策 	

4. 研究業績

(1)研究業績の公表

①論文

(タイトル、共著者の有無(共著の場合は主たる担当箇所について)、掲載雑誌名(号数)、掲載(受理)年月日)

- ・場面の知能を再考する、共著者有(担当箇所:場面の知能から学習論を再考する)、教育哲学研究(117)、2018年6月
- ・Assessment of Rubric-Based Evaluation by Nonparametric Multiple Comparisons in First-Year Education in a Japanese University、共著者有(担当箇所:ルーブリック評価の部分)、PEOPLE: International Journal of Social Sciences(4.1)、2018年6月
- ・教育から学習へ:教育のパラダイム転換〜「まなぶる▶ときわびとI」の実践から〜、共著者有(担当箇所:ルーブリック評価の部分)、神戸常盤大学紀要(11)、2018年3月
- ・初年次教育科目「まなぶる▶ときわびとI」で何を得たか〜計量テキスト分析による学生が捉える学修の〈意味〉〜、共著者有(担当箇所:ルーブリック評価の部分)、神戸常盤大学紀要(11)、2018年3月
- ・学生の主体的な学びを中心とした教員養成のあり方の課題と展望ー専門性の向上と大学教育の質保証との背反性と類縁性に着目してー、共著者有(担当箇所:全体執筆)、神戸常盤大学紀要(11)、2018年3月
- ・アクティブ・ラーニングを支えるポートフォリオ評価ー「まなぶる▶ときわびとI」における目標と指導と評価の一体化をめざしてー、共著者有(担当箇所:ルーブリック評価の部分)、神戸常盤大学紀要(11)、2018年3月
- ・Ensuring Equal Evaluation among Teachers in First-Year Education Courses through Rubrics: A Multiple Comparison Analysis、共著者有(担当箇所:ルーブリック評価の部分)、International Conference on Education, Psychology, and Learning (ICEPL)、2018年3月
- ・日本における教育思想史研究の展開ー教育学の科学的自立と教育学的公共性をめぐってー、共著者無、緑葉(12)、2017年11月

②著書

(タイトル、共著者の有無(共著の場合は主たる担当箇所または担当ページ)、出版年、出版社名)

- ・教育のアイデア、共著者有(担当箇所:第8章「社会教育・生涯学習」)、2018年、昭和堂
- ・子どもの未来と教育を考えるII、共著者有(担当箇所:第6章「近代教育思想-私たちの教育観を西洋教育史から問い直す-」)
- ・教育思想史事典増補改訂版、共著者有(担当箇所:「学び」の項目)、2017年、勁草書房

③学会報告等

(タイトル、報告学会(大会)名(開催年月日)、共同報告者の有無(共同報告の場合は主たる担当箇所))

- ・「心理学における反射弧概念」の記号論的考察、日本デューイ学会第63回研究大会(2019年10月)、共同報告者無
- ・Childrearing Support Achieved through Collaboration among Citizens, Municipal Government, and the University、15th International Workshop on Higher Education Reform (HER) (2019年9月)、共同報告者有(担当箇所:大学の地域貢献に関する部分)
- ・Universities' Possible Support Roles in Municipalities' Policymaking and Implementation as a Type of Community Engagement、15th International Workshop on Higher Education Reform (HER) (2018年9月)、共同報告者有(担当箇所:大学の地域貢献に関する部分)
- ・Ensuring Equal Evaluation among Teachers in First-Year Education Courses through Rubrics: A Multiple Comparison Analysis、2018 International Conference on Education, Psychology, and Learning (ICEPL) (2018年4月)、共同報告者有(担当箇所:ルーブリック評価の部分)
- ・「初年次教育科目「まなぶる▶ときわびとI」で何を得たか〜学生が捉える学修の〈意味〉〜、

<p>第 24 回大学教育研究フォーラム (2018 年 3 月)、共同報告者有 (担当箇所: ルーブリック評価の部分)</p> <ul style="list-style-type: none"> Assessment of Rubric-Based Evaluation by Nonparametric Multiple Comparisons in First-Year Education in a Japanese University、3rd International Conference on Teaching, Education & Learning (ICTEL) (2018 年 3 月)、共同報告者有 (担当箇所: ルーブリック評価の部分) 場面の知能を再考する、教育哲学会第 60 回大会 (2017 年 10 月)、共同報告者有 (担当箇所: 「場面の知能」という発想から学習論を再考する)
④その他の公表実績
(2)学会活動等
学会でのコメンテーター、司会活動 (担当報告名、担当学会 (大会) 名 (開催年月日))
学会での役職など (学会名)
<ul style="list-style-type: none"> 教育哲学会 国際交流委員会編集幹事
学会・分科会の開催運営 (担当学会 (大会) 名 (開催年月日)、開催場所)
<ul style="list-style-type: none"> 教育哲学会第 60 回大会 (2017 年 10 月)、大阪大学
(3)研究会活動等
①その他の研究活動参加 (参加研究会名、調査活動名 (期間))
<ul style="list-style-type: none"> 教育と心理学の思想史研究会、アメリカ・プラグマティズムとワロンの関係性に関する調査 (2017 年～現在に至る)
②その活動による成果
<ul style="list-style-type: none"> 教育哲学会第 60 回大会において成果発表
(4)外部資金・競争的資金獲得実績
(5)特許出願

5. 地域・社会貢献

(1)学外団体
①国・地方公共団体等の委員会・審議会 (それぞれの名称、業務内容、担当期間)
②国・地方公共団体等の調査受託等 (それぞれの名称、業務内容、活動期間)
③ (公益性の強い) NPO・NGO 法人への参加 (それぞれの名称と活動内容、活動期間)
④ (兼業規程で業務と見なされる範囲内での) 企業等での活動 (企業名、活動内容、活動期間)
⑤大学間あるいは大学と他の公共性の強い団体との共催事業等 (事業名称及び主催・共催者名、活動内容、活動期間)
<ul style="list-style-type: none"> 2040年にむけた高等教育のグランドデザインに関するシンポジウム (神戸常盤大学)、シンポジウムの企画・運営、2019年1~3月 第8回神戸常盤学術フォーラム (神戸常盤大学)、講演「教育と研究を両輪とする高等教育のあり方とは—高等教育改革のゆくえ」、2019年8月

<ul style="list-style-type: none"> ・地域子育てプラットフォームの構築を通じた All-Win プラン (神戸常盤大学)、事業全体の計画・実施・運営、2017年～2019年
⑥その他 (名称、活動場所、活動期間)
(2)大学が主体となっている地域貢献活動等
①公開講座・オープンカレッジの開講 (タイトル名、開催場所、開催日時) <ul style="list-style-type: none"> ・震災復興のその後ー長田の今を考えるー、グランフロント大阪、2018年8月
②社会人・高校生向けの講座 (タイトル名、開催場所、開催日時) <ul style="list-style-type: none"> ・高大連携講座、兵庫県立神戸鈴蘭台高等学校、2019年1月 ・高大連携講座、兵庫県立神戸鈴蘭台高等学校、2018年1月 ・子どもを理解する・教育するとは、兵庫県立豊岡高等学校、2017年9月 ・先生の1日、兵庫県立明石清水高等学校、2017年9月
③その他 (名称、活動場所、活動期間)
(3)その他 (個人の資格で参加している社会活動等) (活動内容、主たる活動場所、活動期間)

6. 大学の管理・運営

(1)役職 (副学長、部局長、学科長) (職名、期間)
(2)委員会・チーム活動 (名称、期間) <ul style="list-style-type: none"> ・教職課程部会 (2019年4月～現在に至る) ・研究・広報委員会 (2019年4月～現在に至る) ・大学案内ワーキンググループ (2019年9月～現在に至る) ・創造農学科開設に伴う教職課程認定の申請作業 (2019年4月～2019年11月)
(3)学内行事への参加 (行事名、参加日時) <ul style="list-style-type: none"> ・オープンキャンパス、2019年8月
(4)その他、自発的活動など (活動名、活動内容、活動期間) <ul style="list-style-type: none"> ・学術教養センターの位置づけの明確化にむけた検討、専門教育も含めた一般教育全体のあり方の意義の明確化、2019年4月～現在に至る